

人間の創造性のとらえ方に関しては、様々な見方がある。初期の創造性に関する見方には、「神からの啓示」のような神秘的な意味合いが強かった(A) 。これはいわば創造性に関する科学的研究は不可能であるという立場。また、創造性というのは特殊な能力であり、それを発揮できるのは、一部の特別な能力を持った人たちだけとする立場(A)もある。

科学的創造性研究の1つの方向性は、創造性の能力を測るということに向けられ、そのためテストが開発された。それらの中には、日用品の新しい使い方を考えさせるもの、連想テスト、物語の生成、数学の作問などが含まれる。また、創造性の能力をどのように育むのか、その能力を発揮させるためにどのような支援を行えばよいのかというタイプの研究も多い。

認知的アプローチでは、創造的思考の根底となる心的表象および創造プロセスの解明を目的としており、認知心理学のパラダイムに基づいた実験的手法や、参与観察などの観察的な手法を用いた創造プロセスの詳細な検討が行われている。その代表的な研究として、Finkeの提唱した創造的認知アプローチによる研究が挙げられる。

Finkeらは、これらの実験に基づき、人間の創造活動プロセスのモデルとして、(1)を提案している。(1)では、創造性は、(2)と(3)という2つの段階が相互作用するプロセスを通して発現するとされる。(2)では、抽象的アイデアの候補、いわばアイデアの種が構成される。そこで構成されるアイデアの種は、前発明形態 (preinventive forms) と呼ばれる。その中から有望と思われる候補が、次の(3)に進み、関連する知識に基づき精緻化され、具体化される。

そこで明らかになった知見の中でも、とりわけ重要なことは、2つの段階にかかる(4)が、そこから生まれる産出物の創造性のレベルを規定することがわかってきたことである。とりわけ、(4)が存在しない自由な状態よりも、むしろ適度な(4)がかかる時に、より創造的な産出物が得られるという点は興味深い。

また、もう1つ重要な点は、人間の創造活動は、(5)に大きく縛られるという点である。具体的には、実験参加者が既存知識として所持している(5)や、参加者に事前に例示される(5)が後の創造的活動に大きな影響を与えることや、さらに(5)の提示によって、実験参加者の創造的活動を操作可能であることなどが、創造的認知アプローチに基づく実験を通して確認されている。

問1 (1)から(5)に適切な言葉を入れなさい。

問2 (A)のような立場に対して、科学的な創造性研究の基となったもう一つの立場に関して、200字程度で説明しなさい。(解答の文字数を明記せよ。)

問3 (B)について、200次程度で説明しなさい。(解答の文字数を明記せよ。)